

STOP!

動物虐待を見過ごさないで!!

動物虐待を「軽い」犯罪だとしてやり過ごしてしまう学校や両親、社会や裁判所は、
時限爆弾を見過ごしているのだ。

動物虐待と人間への暴力、犯罪の関係性は、これまでの研究により証明されています。

「日本にアニマルポリスを誕生させよう！」のサイトでは、生命を大事に考え、動物虐待を許さないという視点と同時に、動物虐待は人間への暴力・犯罪に発展するシグナルである、という視点からも、『動物虐待事件を見過ごさないで!!』と、警察や一般市民への呼びかけを行っています。



日本にアニマルポリスを誕生させよう!

<http://www.animalpolice.net>

動物虐待は、やがて凶悪犯罪へとエスカレートすることが多い

近年、人に対して暴力的犯罪を犯す者は、多くが動物虐待を行っていることが明らかにされています。残念ながら、この日本においても、そのことを証明する事例が目立つようになってきました。

「たかが猫1匹が殺されたくらいで…」とは、言わないでください。残忍な行為で自分が圧倒的支配者となって、弱い立場の者をいたぶり殺すことができる精神状態になっている人間が身近にいる、という事実を重く受け止めてください。このような心の闇を抱えた人間を早期に発見し、ケアしていくことは、将来の更なる重大な犯罪を未然に防ぐかもしれません。

動物虐待事件には、警察・検察・心理学者・教育関係者・動物保護団体、そして一般市民の真剣な対処が望まれます。

では、まず、研究が進んでいるアメリカの事例を紹介しますので、いかに動物虐待と、凶悪犯罪が密接な関係にあるのかを知ってください。

●事例1

少年期、裏庭の木に犬や猫を突き刺していた=のちに17人の少年と男性を殺害

ジェフリー・ダーマーは、少年を含む17人の男性を殺害し、死体を切り刻み、一部の死体を食べたと告白している。ダーマーは幼少時代、犬や猫を裏庭の木に突き刺して殺していた。ダーマーは死刑を宣告されたが、処刑される前の1994年に他の囚人に殺された。

●事例2

13歳で猫の首を切り落とすなど…=のちに同じ方法で母親を含む8人の女性を殺害

エドモンド・ケンパーは1973年に母親を含む8人の女性を殺したかどで第一級殺人罪を宣告された。13歳の時には、隣人の猫を殺し(一部は生き埋めにした)、頭を棒に突き刺してはその「戦利品」に向かって呪文を唱えたりもした。彼は一匹の猫の頭のとっぺんを斧で切り落とし、別の猫の首を切断した。自分自身の飼い猫も殺してから、首を切り、その後ばらばらに切り刻んだ。これは、まさに後年彼が自分の母親を殺した後にしたことと同じである。

●事例3

罿を仕掛け、犬と猫を矢で撃つ=のちに13人の女性を殺害

1962年から63年の間に13人の女性を殺した「ボストンの絞殺魔」であることを自ら認めたが、それとは無関係の強盗・暴行・4人の女性に対する性犯罪により終身刑を宣告されている。彼は幼い頃、オレンジの箱に罿を仕掛けて犬や猫をつかまえ、箱ごと矢で射た。

●事例4

飼い犬を死ぬまで虐待=16歳で母親を刺殺後、高校で2人を殺害、7人が重軽傷

16歳のルーク・ウッドハムは、母親を刺殺後高校に行き、クラスメート2人を殺し、7人に怪我を負わせた。ウッドハムは、この殺人を行う前に、もう一人と共に自分の飼い犬のスパークルに火をつけ、殴る等の暴行を加えて殺したと新聞に投稿している。彼はこの行為について「本当に美しいものであった」と表現している。1998年6月、ウッドハムは殺人3件、加重暴行7件について有罪となり、3回の終身刑が宣告され、また暴行1件について20年が加算された。

●事例5

ねずみの頭をかなくてで打ち、火をつけることを楽しむ=18歳で12人の生徒と教師を殺害

18歳のエリック・ハリスと17歳のディラン・クレボールドは、高校に銃とパイプ爆弾を持ち込み、同級生12人と教師1人を殺してから自殺した(とされている)。複数の友人が、ハリスはネズミの頭をボールで叩き潰しては燃やして楽しんでたと証言している。ディラン・クレボールドの葬式を執り行ったドン・マークスハウゼン牧師は「ええ、彼の両親は息子が銃を持っているのを知っていました。でも、息子が持っている一番大きな銃は、キツツキを撃つためのものだとばかり思っていたんです」と話したと新聞は伝えている。

●事例6

いつも動物虐待の話をしてきた少年=15歳の時、両親を殺害、更に。。。

キップ・キンケルは15歳で両親を殺害した後、高校のカフェテリアで発砲、クラスメート2人を殺し、その他22人を負傷させた。キップ・キンケルがいたフットボール・チームのチームメイトは、ニューヨークタイムズ(98年5月22日版)に「いつも、自分が動物に何をしたか話していました。動物を苦しめて、それを俺たちに話すのが好きだって。彼は気が短かった。一度は牛も殺したって言ってました」と話している。

●事例7:米連邦捜査局(FBI)の調査から

7歳ごろから犬や猫を切り刻み、死体を飾っては友人に見せる=少年17人を絞殺し、死体を食べていた男

米連邦捜査局(FBI)は1970年ごろから、凶悪な殺人犯らの少年期を調べ、重要な共通項を見いだしました。深刻な動物虐待を繰り返していた事実と放火癖の2点でした。例えば、76~77年にかけてニューヨークで6人を銃で殺害し、2000件の放火を自供した男は、7歳ごろに養母の金魚鉢に毒物を入れ、死んだ金魚を針で刺したり、鳥を殺したりしていました。91年までにミルウォーキーで少年17人を絞殺し、死体を食べていた男は、7歳ごろから犬や猫を切り刻み、死体を飾っては友人に見せていました。

FBI元特別捜査官のロバート・レスラー氏は「彼らの多くが小学生時代、あるいはそれ以前から動物虐待を繰り返し、他の生命の支配欲を満たし、快感を感じていた」と指摘しています。



海外ではすでにアニマルポリスが活躍しています。。

動物の犠牲・人間の犠牲：警察の事件ファイルに基づく報告__（1）

●ラッセル・ウェストンJr.は12匹の猫を虐待して殺した。火をつけ、しっぽや前足、耳を切断し、目に毒性の薬品を注いで失明させたり、無理やり毒を食べさせたりし、木から吊るした（縄は、ゆっくり苦しんで死ぬように緩くしてあった）。彼はその後、アメリカの首都ワシントンDCで警官2人を殺害した。

●ジェフリー・ダーマーは猫を木に突き刺したり、犬を首を切断したりした。彼はその後、少年たちをばらばらに切り刻み、切り刻んだ死体を冷蔵庫に保存した。男性17人を殺害している。

●キップ・キンケルはオレゴン州スプリングフィールドでクラスメート25人に対して発砲し、うち数人を殺している。彼は両親も殺害しており、牛を殺したこともあると話している。生きたまま猫に火をつけ、街の大通りを引きずって歩いた。クラスメートは彼を「第三次世界大戦でも始めそうな奴」と評している。

●「ボストンの絞殺魔」アルバート・デ・サルボは少年時代に、猫と犬を仕切りで分けた同じ木箱に入れてから食物を与えずにおき、数日後仕切りをはずし、お互いに食い殺しあうのを眺めた。彼は13人の女性を強姦・殺害している。何人かの死体については殺害後、胸が悪くなるようなポーズを取らせている。

●リチャード・アレン・デイヴィスは何度も、猫に火をつけている。12歳のポーリー・クラウスを寝室で殺害する前には、彼女が飼っていた動物を全部殺している。

●11歳のアンドリュー・ゴールデンと13歳のミッチェルは、犬を虐待し殺している。1998年3月24日、アーカンソー州ジョーンズバラで、ゴールデンとジョンソンは学校の防災訓練の間に生徒4人と教師1人に発砲して殺害した。

●16歳のルーク・ウッドハムは、母親を刺し殺した後クラスメート2名を殺害し、その他7名を銃で撃った。彼は、飼い犬のスパークルを野球のバットで殴り、喉に液体燃料を流し込み頸部に火をつけたことを認めている。法廷に召喚されたときの記録には、「今日初めて生き物を殺した。すばらしかった。あの鳴き声を忘れることはないだろう。まるで人間みたいだった」と書いている。ウッドハム

は1998年6月、3件の殺人及び7件の加重暴行に対して有罪となり、3回の終身刑と各暴行について20年の加算を宣告されている。

●テッド・バンディは1989年に、50件以上の殺人について処刑された。彼は、祖父が動物を虐待するのを見るよう無理強いされていた。バンディはその後、墓に動物の骨を積み上げている。母親、内縁の妻、数知れない人々を殺害している。

●エドワード・ケンパーは2匹の猫を切り刻んだ。その後、祖父母、母親、その他7人の女性を殺害している。

●リチャード・スペックは小鳥を換気扇の中に投げ入れたことがある。8人の女性を殺害している。

●ランディ・ロスは猫を車のエンジンにテープで貼り付けたり、カエルに工業用のヤスリをかけたことがある。妻2人を殺害し、3人目も殺そうとした。

●デイヴィッド・リチャード・デイヴィスは健康な2頭のポニーを撃ち殺し、2匹の子猫にワインの壺を投げつけ、違法なやり方で捕獲した。彼は妻のシャノン・モーア・デイヴィスを保険金のために殺している。

●デュッセルドルフのモンスター、ピーター・カーテンは、犬を虐待し、動物を殺しながら獣姦している。子供を含む50人以上の男女の殺害・殺害未遂を犯している。

●「サクラメントのバンパイア・キラー」リチャード・トレントン・チェイスは、血や内臓を求めて鳥の頭を噛み切り、動物を水死させた。その後、6人を無差別に襲って殺している。最初の殺人事件の現場にいた警官は、事件から何ヶ月も悪夢を見続けたと告白している。

★日本の名前を明らかにされていない15歳の「神戸の殺人犯」は、猫の頭を切断し、数羽のハトを絞殺している。11歳の少年の頭部を切断し、10歳の少女をハンマーで瀕死状態になるまで殴りつけた。その他にも3人の子供を襲っている。

●ヘンリー・リー・ルーカスは数多くの動物を殺してから、死体を獣姦している。マイケル・カーティエは、4歳でウサギを脱臼させ、猫を閉めた窓に向かって投げつけ、3人の子供に対して、別々に暴行を加えて怪我をさせている。

動物の犠牲・人間の犠牲：警察の事件ファイルに基づく報告_(2)

●リチャード・ウィリアム・レオナードの祖母は、リチャードの子供時代に、無理やり猫や子猫の手足を切断させた。彼はその後、スティーブン・デンプシーを弓矢で殺している。また、イザディン・バーマッドも首を切って殺している。

●トム・ディロンはよその人間のペットを殺しているが、ジェイミー・パクストン(21歳)、クロード・ホーキンス(49歳)、ドナルド・ウエリング(35歳)、ケヴィン・ローリング(30歳)、ゲイリー・ブラッドリー(44歳)を殺害している。

●エリック・スミスは9歳で隣人の猫を絞め殺しているが、13歳のときに4歳のデリック・ロビーを殴り殺した。スミスはデリックを森に誘い込み、棒で性的な暴行を働き、岩で殴り殺した。

●「サムの子」デイヴィッド・パーコヴィッツは、嫉妬から母親が飼っていたインコを毒殺した。その後、13人の若い男女を銃で撃っている。うち6人が死亡し、少なくとも2人に治癒不能な障害が残った。

●アーサー・ショークロスは何度も、猫を湖に投げ込み、猫が疲れて水死するのを待った。少女を殺し、15年半服役した後、更に11人の女性を殺害している。

●マイケル・ペリーは隣人の犬の頭を切断した。その後、両親、子供だった甥、隣人2人を殺している。

●ジェyson・マッセイの殺害歴は、猫や犬から始まった。20歳のときには13歳の少女の首を切断し内臓を取り出している。また、14歳の少年を銃で殺害している。37匹の猫、29匹の犬、6頭の牛を殺したことがあると話している。

●パトリック・シェリルは近所の人々のペットを盗み、荷造りロープで縛り付け、自分の飼い犬をけしかけて殺した。1986年に同僚14人を殺害した後自殺している。

●「ハッピーフェース・キラール」キース・ハンター・ジェスパーソンは、シリスの頭を叩き潰し、野良猫や野良犬を殴ったり、絞め殺したり、銃で撃ったりしていた。女性8人を絞殺したことが知られている。「動物から実際に命を搾り出すのさ。絞め殺すのが猫でも人間でも気持ちは変わらない。俺は、うんと小さい頃に動物を殺すと人間がどうなるのかの見本さ」と話している。

●1985年に35人を殺害したかどで処刑されたキャロル・エドワード・コールは、初めて行った暴力行為は、自分の家のポーチで子犬を絞殺したことだ、と告白している。

●ロバート・オールトン・ハリスは16歳の少年2人を殺し、隣人に灯油を浴びせてから火のついたマッチを投げつけた。彼が初めて警察沙汰を起こしたのは、近所の人々の猫を殺したときであった。

●ケープ・ガゼットのケリー・ケスターによれば、連続殺人犯の大半は、動物を虐待したことがあるとのことである。16歳のルーク・ウッドハムは、自分の犬を殴り、火をつけて殺したことを「本当に美しい行為だった」と表現している。彼はその後、自分の母親をナイフで殺害し、学校でクラスメート2名を殺し、他7人に怪我をさせている。

●エドモンド・エミル・ケンパーは、10代の初めには猫を虐待することを好んでおり、生き埋めにするこもあった。また、殺して頭を棒に突き刺したりもした。最後には自分の猫の頭を切断した後、ばらばらに切り刻んでいる。そのやり方は、ケンパーが自分の母親を殺した後にしたことと同じだった。

●ジェフリー・ダーマーは、母親の許しを得て裏庭で犬や猫を刺し殺していた。その後虐待の対象を動物から人間に移し、少年を含む17人の男性の死体をばらばらにして食べた。

動物虐待者が全員連続殺人犯になるわけではないが、米国の連続殺人犯のほとんどが、人生のいずれかの時点、通常は少年時代に動物を虐待していたことが証明されている。この理由から、動物愛護協会や刑事司法制度では、動物虐待に関する法を強化するだけでなく、動物虐待事件に対しては家庭内暴力を示す目安になる可能性があることから、より細かく注意を払うための取組みを強化している。

5月10日にキャップ・ハイで現場研修を行った、ビービー・メディカルセンターの代表であるベティ・ジーン・パークは、「家庭内で虐待を行う者の大半は、ペットを人質として使うんです。彼らは(動物を)犠牲者に対して権力をふるい、犠牲者を支配するために利用するのです」と話している。

動物の犠牲・人間の犠牲：警察の事件ファイルに基づく報告__ (3)

彼女は、全国で記録されている家庭内暴力事件の60パーセントにおいて、子供たちは動物虐待を目にしていると話している。また、更に悪いことに、ほとんどのシェルターがペットを受け入れていないことから、虐待を受けている子供がペットを置き去りにすることができず、こうしたケースの30パーセントにおいて虐待の犠牲者は暴力的な関係から脱することが遅れ、子供たちが虐待を受けるのを長引かせている、と彼女は話す。「子供が動物を虐待するには様々な理由があります」とパークは言う。だが、動物を虐待するのは子供たち全体の7パーセントから9パーセントに過ぎない。こうした子供たちのうち、60～70パーセントが成人後に重大な暴力事件を犯す。時には、成人するまで待たないこともある。

コロンバイン高校で虐殺を行った少年のうちの一人(エリック・ハリス、18歳)の知人は、ハリスはボールを使ってネズミの頭を叩き潰してから燃やしたと話している。

パークは、子供たちは歪んだ自己防衛メカニズムから動物を虐待することもあると言う。虐待を受け続けることから身を守れないと絶望的になった子供は、その後動物を治して動物に感謝されたいがためだけに、動物を傷つけることもあると言う。ピーピー・メディカルセンターの性的暴力看護検査員(SANE)チームの責任者であるシェリ・ウータースによれば、SANEチームが2001年に扱った性犯罪の犠牲者のうち50パーセントが、小児科の患者であった。残念なことに、こうした子供たちの多くは事後適切なカウンセリングを受けることができず、虐待のパターン通り、自分自身も虐待するようになってしまうと彼女は話している。

パークによれば、「裁判官たちは動物虐待の深刻さに気づき始めて」いるということだが、彼女は、刑事司法制度には伝統的に「男の子は男の子」という考え方があり、「手遅れになるまで、虐待を見逃してしまうんですよ」とも付け加える。

ナショナル・スクール・セイフティ・アンド・セキュリティ・サービスのケン・トランプは、深刻なストレス要因は子供を追い詰めてしまうと考えている。子供が問題を抱えている場合、最も重要な危険信号には、動物虐待、自殺未遂や自殺するという脅し、自傷行為が挙げられる。

以上は、現在米国で「全米人道協会」(HSUS)が展開している、『ファースト・ストライク・キャンペーン(動物虐待を最初の一撃で止める)』の役を務める、同会の教育担当副会長・心理学博士のランダル・ロックウッド博士の研究によります。

●ロックウッド博士談

もちろん動物虐待をする少年が、すべて殺人犯を犯すとは言えません。特に幼少期の動物虐待は好奇心や通過儀礼的な行動としても起こりえます。が、7歳を過ぎても繰り返し動物を虐待し、快感を感じているケースでは、その少年が家庭や学校で問題を抱えていないかを調べる必要があります。

動物虐待は人間への暴力行為に向かう前のシグナルです。動物虐待の段階で犯人を捕まえていれば、発生を免れたであろう殺人事件も少なくない。虐待対象が動物だから、と軽く考えてはいけません。

全米人道協会副会長、ランダル・ロックウッド氏が来日したを特集した新聞記事を紹介します。

動物虐待

人への暴力を予知する シグナル

動物虐待への罰則が強化された改正動物愛護法の成立から2年半が過ぎた。しかし、日本ではまだ「たかが動物いじめ」と軽く見られがちだ。このほど初来日した米国最大の動物愛護団体「全米人道協会(HUSU)」の教育担当副会長、ランダル・ロックウッド氏は「動物虐待は人への暴力を予知するシグナルだ」と指摘する。動物に触れる機会の増える夏休み。動物と人間とのかかわり方を考えてみたい。(小国綾子)

動物虐待と人間への暴力の間には、どのような関係があるのですか

米連邦捜査局(FBI)は1970年ごろから、凶悪な殺人犯らの少年期を調べ、重要な共通項を見いだしました。深刻な動物虐待を繰り返していた事実と放火癖の2点でした。例えば、76~77年にかけニューヨークで6人を銃で殺害し、2000件の放火を自供した男は、7歳ごろに養母の金魚鉢に毒物を入れ、死んだ金魚を針で刺したり、鳥を殺したりしていました。91年までにミルウォーキーで少年17人を絞殺し、死体を食べていた男は、7歳ごろから犬や猫を切り刻み、死体を飾っては友人に見せていました。



毎日新聞(関東版)2002年8月14日夕刊 特集ワイド2

FBI元特別捜査官のロバート・レスラー氏は「彼らの多くが小学生時代、あるいはそれ以前から動物虐待を繰り返し、他の生命の支配欲を満たし、快感を感じていた」と指摘しています。

<神戸市の連続児童殺傷事件でも、加害少年はネコなどへの虐待を繰り返していたと報道されています>

もちろん動物虐待をする少年が、すべて殺人犯を犯すとは言えません。特に幼少期の動物虐待は好奇心や通過儀礼的な行動としても起こりえます。が、7歳を過ぎても繰り返し動物を虐待し、快感を感じているケースでは、その少年が家庭や学校で問題を抱えていないかを調べる必要があります。

動物虐待は人間への暴力行為に向かう前のシグナルです。動物虐待の段階で犯人を捕まえていれば、発生を免れただろう殺人事件も少なくない。虐待対象が動物だから、と軽く考えてはいけません。

また、動物虐待は、児童虐待やDV(ドメスティック・バイオレンス=配偶者の暴力)とも深く関係しています。HSUSが2000年、動物虐待者1624人を調べたところ、特に深刻な虐待を行った922人のうち21%が人間にも暴力を振るっており、暴力の対象は13%が妻、7%が子供、1%が老人だったのです。

動物虐待は児童虐待を早期発見する シグナルにもなる？

そうです。動物を虐待する子供はおおまかに分けると、(1)未成熟で社会的スキルや認知不足から虐待する子供(2)自身が親などから虐待を受けている被害者(3)将来反社会的行動を取る可能性のある子供に分類できます。つまり、動物を虐待する少年は将来人間に暴力を向ける可能性があり、ペットを虐待する親は子供を虐待している可能性があり、動物を虐待する子供は親から虐待されているか、親の暴力を目撃している可能性が高いのです。

私たちは83年、ニュージャージー州で児童虐待のあった53の家族を訪問し、聞き取り調査をしました。すると60%の家庭で家族の一員が動物虐待を行っていました。

DVについても同じことがいえます。97年、夫の暴力が原因でシェルターに逃げた101人の女性にインタビューしたところ、夫から「ペットを殺すぞ、傷つけるぞ」と脅された経験を持つ人は70%、実際に傷つけられたか殺された人も54%いました。DVのない家庭では脅された経験者が16.7%、実際に傷つけられた人も3.5%ですから、大変な差です。

さらにDV被害者の女性の61.5%が「子供が動物虐待の現場を目撃した」と答え、この子供たちの3分の2は自らも動物に暴力を振っていました。親から虐待されたり、DVを目の当たりにした子は、動物やその他の弱い存在に対して暴力を再現する傾向があるのです。

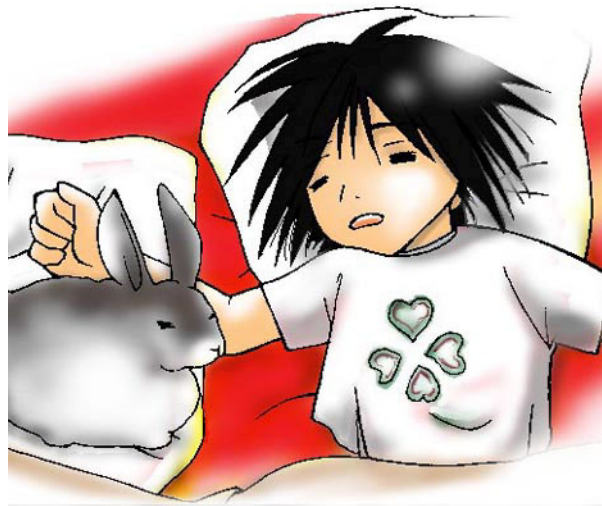
動物虐待と児童虐待やDVとの関連に 着目し、予防効果を上げている事例は ありますか

米国では警察当局が動物虐待とDVの関連に注目し始めました。ポルティモアの警察のDV対応マニュアルには「ペットへの虐待もチェックし、動物用のシェルター施設に連絡をすること」と明記されています。DV被害者の中には、家を出てシェルターに逃げ込もうとしたものの、ペットと一緒に連れていけないと言われ、暴力から逃げ遅れた女性も少なくない。警察がペットの逃げ場を用意することで、DV被害者も家から逃げやすくなるのです。

これらの対策の結果ポルティモアの管内のDV絡みの殺人事件は急減しました。95年には年間26件あったのが、DV対応マニュアルが書き換えられた後の99年には5件に減ったのです。つまり動物虐待は凶悪犯罪や児童虐待、DVを察知する重要なシグナルであり、動物虐待に着目することで、人命を救うこともできるのです。

●ランダル・ロックウッドさん

1948年米国ニューヨーク市生まれ。ワシントン大で心理学の博士号を取得。同大およびニューヨーク州立大の助教授を経て、84年からHSUSに参加。2000年から現職。動物への暴力と人間への暴力の関連性についての啓もう活動「ファースト・ストライク・キャンペーン」の代表を勤める。



動物虐待と人間に対する虐待:犯罪における関連性

元サイト：<http://www.all-creatures.org/sof/animalabuse.html>

翻訳：べりる（「日本にアニマルポリスを誕生させよう」サポーター）

動物に対する暴力行為は、動物だけを対象とするに限らない暴力的な病理の兆候であることが認められて久しい。人道主義で知られるアルバート・シュバイツァーは、「生き物の命を軽んじる人は、人間の命も疎かにするようになる危険がある」と記している。FBI（連邦捜査局）のために連続殺人犯のプロファイリングを行ったロバート・K・レスラーによれば、「殺人犯は、子供時代に動物を殺したり虐待していることが多い」。数々の研究から、社会学者、議員、裁判所も今では動物に対する残虐行為には注意が必要であると考えられている。こうした行為は、人間を含む暴力的な病理の最初の兆候である可能性もあるからだ。

暴力の長い道のり

動物虐待は単に虐待者の人格上の小さな欠点によるものではなく、深刻な障害の兆候なのである。精神医学及び犯罪学の研究では、動物に対して残虐行為を働く者のうち、多くはそれにとどまらず、やがて人間を対象にし始めるということが示されている。

FBI では、連続強姦犯や連続殺人犯のコンピューター記録には動物に対する残虐行為の前歴が規則的に現れる特徴のひとつとして表われることを認めている。また、精神障害や情緒障害の標準的な診断・治療マニュアルでは、動物への虐待行為が行為障害の診断基準として挙げられている。研究によれば、暴力的で攻撃的な犯罪者は、あまり攻撃的でないと見なされる犯罪者の場合よりも、子供時代に動物を虐待する傾向が高いということが示されている。犬や猫を繰り返し虐待した精神病患者に対する研究では、少年を殺したことのある患者1人を含め、全員が人間に対しても高いレベルの攻撃性を持っていることが証明された。研究者にとっては、動物への残虐な行為に強い魅力を感じることは、連続強姦犯や連続殺人犯を示す危険信号である。

凶悪殺人犯

有名な例は枚挙にいとまがない。郵便局で同僚14人を銃で殺害してから自殺したパトリック・シェリルは、近所の人々のペットを盗み、自分の飼い犬をけしかけて殺させていた。7歳の少年を強姦し、刺し殺してから手足を切断したアール・ケネス・シュライナーは、犬の肛門に花火を差し込み、猫を絞め殺した男として近所で有名だった。

サンディエゴの小学校で発砲し、子供2人他9人を殺したブレンダ・スペンサーは、猫や犬をしょっちゅう虐待しており、尻尾に火をつけることも多かった。13人の女性を殺害した「ボストンの絞殺魔」アルバート・デサルボは、少年時代には犬や猫をオレンジ箱に捕まえ、弓矢で箱ごと射た。35件の殺人を犯しそのうち5件について処刑されたキャロル・エドワード・コールは、子供のときに子犬を絞め殺したのが最初の暴力行為だったと話している。1987年には、ミズーリ高校の生徒3人がクラスメートを殴り殺した罪で起訴されたが、彼らはその数年前から、何度も動物をばらばらに切り刻んでいた。そのうちの一人は、覚えていないくらいたくさんの猫を殺したと告白している。また、両親を殺害した2人の兄弟は、事件を起こす前に、猫の頭を切断したとクラスメートに話していた。連続殺人犯のジェフリー・ダーマーは、犬の頭、カエル、猫を棒に突き刺していた。

残念ながら、こうした犯罪者の子供時代の暴力行為の多くは、その後人間に向けられるようになるまで、調べられることはなかった。人類学者のマーガレット・ミードは、「子供に起きることのうちで最も恐ろしいことの一つは、動物を殺したり虐待して知られずにいることだ」と指摘している。

動物に対する残虐行為と家庭内暴力

家庭内暴力は弱いものに対して向けられるものであることから、動物の虐待と子供の虐待には関連性があることが多い。動物をきちんと世話しないで放棄したり、虐待する人間は、自分の子供も虐待したりネグレクトしている可能性がある。子供を人前では虐待しないという分別を持つ親も、動物を人前で虐待することには躊躇しない場合がある。

児童虐待で措置の対象となったニュージャージーの57世帯のうち、88パーセントの世帯でペットが虐待されていた。動物を放置した前歴のある英国の23世帯のうち、83パーセントにおいて子供が虐待やネグレクトの危険にさらされていたと専門家が指摘している。

動物虐待は児童虐待の重要なサインではあるが、動物を虐待しているのは必ずしも両親であるとは限らない。動物を虐待する子供は、家庭で覚えたことを繰り返しているのかもしれない。自分たちの両親のように、怒りや不満に暴力で反応しているのである。子供たちは、家庭で唯一自分たちよりも弱い存在である動物に暴力を向ける。ある専門家は、「暴力的な家庭の子供には、上下関係に基づく暴力行為 (pecking-order battering: 鳥が弱いものをつつくことに由来する) にしよっちゅう参加するという特徴がある」と話す。このときに、子供たちは動物を殺したり、動物の身体に障害を与える。まさに、家庭内暴力は動物に対する子供の残虐行為の背景として、最も多いものである。

虐待のサイクルを止めるには

カーネル大学獣医学部によれば、「心理学者の間では、動物に対する残虐行為は子供から成人にかけての精神障害の継続を示す、もっともよい例の一つであると信じられている。つまり、子供時代の動物虐待の予後的な意義については、十分な裏づけがある」とのことである。

動物虐待を「軽い」犯罪だとしてやり過ごしてしまう学校や両親、社会や裁判所は、時限爆弾を見過ごしているのだ。社会はむしろ、積極的に動物虐待を罰し、家庭におけるその他の暴力の兆候を調べ、加害者について集中的なカウンセリングを行うよう求めるべきである。社会は、生物に対する残虐行為はすべての人を危険にさらすものであり、容認されるべきではないということを認識しなくてはならない。

また、子供自身が動物を愛護し大切にするように教える必要がある。動物虐待と人間の虐待との間のつながりについて広範囲な研究を行った結果、2人の専門家が人間社会において、穏やかで善意の関係を発展させるには、子供と動物の間に、肯定的かつ健全な道徳を推し進めることが役に立つ」という結論を出している。

私たちにできること

自分の地域の学校や司法当局に、動物虐待について真剣に対応するよう働きかける。法律は、人間であろうとなかろうと、感覚のある生き物に対して暴力を働くことは許されないという強力なメッセージを発するべきである。

子供や動物の虐待やネグレクトのサインに気をつける。子供が動物が虐待されている、または放置されていると知らせてきたときには、真剣に対応すること。子供は自分自身の苦痛について話す代わりに、動物の苦しみについて話すことがある。

どんな小さなものであっても、子供による動物虐待を見過ごしてはならない。その子供と両親に対して話しかけ、必要であればソーシャルワーカーに連絡を取ること。



イラストレーション: すぎはら千晴